

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム ぼらん千厩 シグナレス

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900116		
法人名	特定非営利活動法人 なごみ		
事業所名	グループホーム ぼらん千厩 シグナレス		
所在地	〒029-0803 岩手県一関市千厩町千厩字前田229		
自己評価作成日	令和3年10月8日	評価結果市町村受理日	令和3年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して6年になりますが、併設しているシグナル棟と協力、連携して「入居者が主人公」という考えのもと、入居者様が一日一日を大切に、安心して過ごされるようプライバシーと尊厳を守りながら、質の高いサービスの提供に努めています。代表者は職員に合った研修への参加を促し、各々の目標に向けてキャリア形成、スキルアップの啓発を継続的に行っています。また、育児中の女性職員に対する時間短縮や勤務内容に制度がある職員に対し、様々な条件を受け入れるための職場環境の整備と職員の意欲向上に対する支援に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に公民館や体育館、公園がある千厩町の中心に位置する事業所である。開所時に職員で考えた理念「皆で一緒に 思いやりのある 笑顔あふれる 普通の生活」の実現のため、職員は日々利用者に寄り添い支援している。職員は、理念を基に介護理念を定め、利用者との何気ない会話や行動を「生活記録」に書きとめ、小さな変化も見逃さず、職員全員で情報共有し支援に当たっている。家族や親戚・友人との関係を大切にし、利用者の気持ちを一番に考え関係の継続への配慮をしている。コロナ禍で地域住民との交流が難しい中、事業所は地域や近隣の住民に認知症に対する理解やその支援方法を広める活動に取り組んでいる。今後、地域住民との協力体制を充実させることにより、一層地域に根ざした事業所となることが期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年11月8日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 シグナレス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を事務室や名札の裏に明示して、常に職員間で共有し、意識しながら支援に努めている。ミーティングの際には、職員全員で唱和している。	開設時に職員で定めた「理念」と理念を基に定めた「介護理念」をネームプレートに掲示している。毎月の職員ミーティングにおいて、利用者それぞれのケアプランの実施状況や介護の実践状況を職員間で共有する中で、全職員が常に理念を意識し、目線や方向性を合わせて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前までは、地域ボランティアの方が定期的に踊りの慰問にいらしたが、現在は挨拶をする程度となっている。落ち着いたらまた、来ていただけよう努めたい。	自治会に加入していないが、コロナ禍で機会が少ないものの、行き交う近隣の方々と笑顔で挨拶を交わしている。敷地内に設置している地域のゴミ収集箱の利用を通じた交流にも配慮している。コロナ禍前は、地域住民の踊りなど、地域のボランティアなども訪れており、コロナ禍終息後には地域との交流を強化する取り組みを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイト養成研修を受講した職員があり、認知症の方の理解や支援の方法を地域や近隣の方々に伝えられる状態にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍前までは、2カ月に1回開催していたが現在は、議事録に日々の活動状況など記載し書面で報告している。	コロナ禍であるが、書面会議を含め2ユニット合同で隔月に実施している。利用者の状況、行事などの活動を報告しているが、委員からの意見・要望等が少ないため、困りごとや悩み事を委員に投げかけるなど、意見や提言につなげる工夫を重ねたいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、電話連絡するだけでなく、必要時には足を運び、連携を図れるよう努めている。	市の集団指導会などを通して、情報・意見交換、助言・指導を受けている。運営推進会議の報告書などを持参しながら、情報交換や助言を得ており、電話での連絡を含め円滑な関係を作っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 シグナレス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の手引きを職員が閲覧できるようにしている。転倒の危険性が高い方についてはご家族様と相談し、了承を得た上で一部ベッド柵を使用させて頂いているが、監視的対応にならないように気をつけている。	法人として委員会を設置し、「身体拘束廃止に関する指針」を定め、それぞれの事業所で、拘束防止の内容を共有して取り組んでいる。引き続き、スピーチロックについて具体的な内容、事例で研修を重ねていくこととしている。玄関は、夜間の防犯対策で施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について全体ミーティングなどを利用して、定期的に話し合いの場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	姉妹ホームで利用されている成年後見制度や「まもりーぶ」についての情報を収集し、利用者様が必要になった際は支援できるよう備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては事前に契約書と重要事項説明書をお渡しした上で、当日改めて説明している。不明な点がある場合はその場で説明し、ご理解いただき、不安なく利用できるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の日常の会話などから思いや要望をくみ取り、可能な限り実践できるよう努めている。電話連絡の際には、利用者様の様子をお伝えし意見や要望などをお聞きしている。	コロナ禍で面会は少なくなったものの、電話での連絡や毎月家族に送付している写真と居室担当職員が手書きした通信を通し、家族等との意思疎通を図っている。家族から「職員の異動を教えて欲しい」「車を止めるところが無い」等の要望があり対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員の意見や提案へ耳を傾け、早急に対応が必要な場合は、管理者を通じて代表者に報告している。	毎月の職員ミーティングや日々の業務を通じ、忌憚のない意見を出し合っている。運営面のほか設備備品、消耗品などに関する様々な意見が出され、すぐ出来るもの、経費が高むもの、時間を要するものなど、職員とその対応策を相談しながら進めている。	

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 シグナレス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境や職員個々の意欲向上に対し、支援している。職員がスキルアップを目指せるよう資格取得の費用も全額補助している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員個々の適性に合わせ、外部研修への積極的な参加を促している。職員がスキルアップを目指せるよう資格取得の費用も補助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍が落ち着いたら市が主催する研修会へ積極的に参加して他施設との交流を図り、サービスの質の向上に努めたい。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階から要望や不安な点などをお聴きし、ホーム内の案内など丁寧に対応することで、利用開始時により安心してサービスを受けられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時からご家族様がどのようなケアを望まれているのかや不安に感じている点なども解消できるように時間をかけて説明や対応するように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会議では、代表者、管理者、入居窓口担当者が時間をかけて話し合い、必要なサービスの見極めを行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ご本人の意思を尊重し、共に心の触れ合える関係を築けるよう努めている。利用者様一人ひとりが役割を持って生活できるよう、有する能力に応じて声掛けして、一緒に生活していることを大切にしている。		

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 シグナレス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や受診報告の際には、日常の様子も含め報告している。また、遠方で来訪が困難なご家族様にもベストショットやメールを利用して近況報告をすることでつながりを保てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が落ち着いたら、本人が大切にしてきた親戚、友人との関係性が途切れないように再度、声掛けを行っていきたい。	馴染みの関係は殆どが家族というなかにあって、親戚や友人という利用者もいる。感染対策のため面会を制限しているが、関係が継続するように毎月家族に送付する通信で様子などを詳しくお知らせしている。入居前から通っている美容室への外出など、利用者の希望を尊重し、関係が継続するよう支援している。家族の協力を得ながら、自宅へのふるさと訪問も考えたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの座席は利用者の希望以外にも、性格や相性なども考慮して決めている。全員で参加できるレク活動や行事を通じて、互いに認め合い、交流できるような環境づくりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム外でお会いした際には、お声掛けさせていただき、世間話のほかにも、可能であれば近況報告を行ない、情報交換ができるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、言動や表情から一人ひとりの意向の把握に努めている。記録に残したり、全体ミーティングの際にも職員間で話し合いを行っている。	両ユニットを合わせ9人が自分の言葉で思いを話すことができる。言葉で自分の思いを表現できない方からは、入浴や散歩の時、居室でゆっくりした時や夜間など、気分がゆったりしたときの会話から、思いや意向を把握している。職員は、「生活記録」で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報やご本人様、ご家族様にお話を聴いて、今までの暮らしの把握に努めている。居室に制作物やご家族様の写真などを飾り、心身共に安定した生活が送れるよう工夫している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 シグナレス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェック、言動や表情の観察により、身体・精神状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや全体ミーティングなど、利用者様のケアについての話し合いの場を作っている。必要に応じて主治医やご家族様より意見を伺い、調整しながら現状に即したケアプランを作成している。	入居時に暫定のプランとして作成し、暮らしの状況を見ながら、必要な見直しを行っている。その後は、居室担当と介護支援専門員がモニタリングし、それに基づき介護計画案が作成されている。家族・利用者からの意見も加味して職員でカンファレンスを実施し、6か月ごとに計画を見直している。必要に応じかかりつけ医や看護師からも指導・助言を得ている。毎日全職員が交代で記録する利用者個々の「生活記録」(利用者の言動と職員の考察を記載)により、全職員で情報共有されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を生活記録に記入し、全体ミーティング等で話し合っ見直しを行なっている。1日2回の申し送りや連絡ノートにより情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方にお住いのご家族様や緊急時は施設にて受診対応している。また利用者様の嗜好に合った食事やおやつの提供に配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍が落ち着いたら、また積極的にボランティアも受入れて地域の方々と交流し楽しい時間を過ごせるように努めたい。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 シグナレス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様のご要望を重視し、受診支援に努めている。また、受診対応を希望されるご家族様には、付き添いをお願いしている。	事業所の都合で変更された例は無く、本人家族の希望する医療機関を、現在はコロナ対策のため職員の付添いで受診している。訪問診療による受診は4人いる。通院時にはバイタル等の「事前報告書」を持参し、病状や生活状況の情報を提供している。受診結果は、受診記録を基に電話で家族に報告している。普段の健康管理は、訪問看護師が行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々利用者様の健康状態を観察し、変化が見られた場合は記録に残し、週1回の訪問診療時に身体の様子や経過を報告して指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ禍のため、利用者様のお見舞いは難しいが退院時には、職員間で情報を共有し、留意事項の確認や状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に看取りの指針を説明し、早い段階からご本人・ご家族様に意向を確認している。入居後もご希望を重視し、かかりつけ医と連携しながら方針を共有し、施設でできることに取り組んでいる。	終末期(看取りを含む)対応の指針を作成しているが、現在看取りは行っていない。家族には、入居時に説明し理解を得ている。利用者の状態の変化に応じ、家族に寄り添い一緒に方向性を考え、病院や他施設への入所等について調整している。今後、職員の研修を考えたいとしている。	看取りの経験がなく、不安を持つ職員も多いと考えられることから、介護のスキルアップを図る意味合いも含め、看取りに関する研修に取り組むことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習に参加している。急変や事故発生時に備え、マニュアルで周知し、全体ミーティングで確認、共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いのもと避難訓練を年2回実施している。災害発生時に備えて、非常食や持ち出し用品の確認を定期的に行なっている。	避難訓練は、ユニット合同で消防署立会いのもと、火災想定訓練を2回(夜間想定1回)実施している。これまで自治会や近隣への協力要請を行なってきたが、今後、避難訓練への参加の呼びかけを行うなど、地域への働きかけについて、消防や運営推進会議の委員とも協議しながら進めることとしている。	災害時、特に夜間の職員体制が手薄であることから地域住民の協力が必要と思われ、そのためには運営推進会議委員、消防団、近隣住民などへ避難訓練参加を呼びかけながら、地域との協力体制づくりに取り組まれることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉遣いに気をつけ、声掛けする時には声の大きさや表情にも気をつけている。職員間の申し送りなどはイニシャルで呼ぶなどプライバシーを損ねないに対応している。	利用者のことは親しみを込めて名前では呼んでいない。トイレ誘導などの声かけは、近くで小声で優しく徹底し、羞恥心を持たないように配慮している。居室への入室は必ず了解を得ている。刺子が得意な方の作品をランチオンマットに使ったりするなど、利用者の特技や好きなことを尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことでも傾聴し、意思疎通が困難な時には選択肢を設けてご本人の意思を伺うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の希望があれば、その日の予定に取り入れられるように調整し、気持ちが満たされるような支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気候に合った衣服を着ていただけるように居室の衣替えなどを支援している。散髪はご本人の希望や伸び具合によって訪問床屋に依頼したり、昔馴染みの美容室に出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜、果物などを提供し楽しんでいただいている。食事前後のテーブル拭きのお手伝いをお願いしている。	献立は、職員が1週間分を作成し、利用者からパン食や芋の子汁、すいとん、リンゴなど季節の献立の希望があれば取り入れている。おやつにアイスクリーム、手作りのホットケーキなどを作って楽しんでいる。職員は、利用者と一緒に食事をし、利用者は下膳やテーブル拭きを手伝っている。	



令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 シグナレス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立で栄養バランスを管理し、摂取量や水分量は総合チェック表に記入し、職員間で共有している。また、一人ひとりに合った食事形態で提供しよう心掛けている(刻み、分量など)。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ない、口腔内の清潔保持に努めている。ご自分でできる方には、自力で行えるよう声掛けや介助を行なっている。必要時には歯科受診している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの残存機能や状態を考慮しながら、できるだけトイレでの排泄を促している。チェック表を確認しながら、間隔が空いた際は声掛けにて誘導し、見守り・介助等を行なっている。	自立している方2人リハビリパンツ16人で、おむつやポータブルトイレを利用している方はいない。排泄チェック表を活用するとともに、職員の適切な声かけと寄り添いを得て昼夜ともトイレで排泄するなど、利用者それぞれに応じたきめの細かい排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や咀嚼に配慮している。自然排便を心掛けているが、便秘が続いた際は主治医の指示のもと必要に応じて下剤服用や訪問看護による浣腸・摘便にて予防対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調やご希望に考慮しながら入浴を楽しんでいただいている。拒否があった場合には、無理強いせずに日にち・時間を移して対応し、清潔保持に努めている。	毎日、ユニット別に午前又は午後に週2、3回入浴している。同性介助を基本にし、一人での入浴を希望する方には安全に配慮して対応している。しょうぶ湯、ゆず湯のほか音楽(歌謡曲)を流したりして、それぞれの時間を楽しんでもらうよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣により活動に参加されたり、午睡をとられたりと状況に応じた支援を心掛けている。主治医の指示のもと必要時に眠剤を服用していただく方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書を保管し、いつでも確認できるようにしている。誤飲・誤薬や内服漏れがないように職員が管理し、服用時は複数の職員で確認しながら行なっている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 シグナレス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様やご家族様の意向を尊重する形で、日々のお手伝いや趣味の時間、散歩などの外出支援を取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に配慮しながら散歩やお花見ドライブ等の支援を行っている。ご家族様の協力を頂きながら外出している。	コロナ禍ではあるが、感染予防のため人混みを避けるなどの工夫をしながら、お花見や紅葉狩りなどの季節のドライブを楽しんでいる。普段は、事業所の近辺の散歩や玄関前での日光浴・外気浴、家族との外出(帰宅や墓参、食事)で、ストレス解消や気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを出納帳、金庫にて職員が管理している。ご希望・ご要望や受診時など利用して、職員と一緒に掛付け、外食・買い物等を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より希望があった時や必要に応じて、その都度電話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の作品を廊下に展示したり、行事や日々の生活の様子を撮影した写真を月ごとに掲示している。トイレは車椅子で入っても余裕がある広さになっているため、ADLが低下しても安心して生活できる作りになっている。	日当たりが良く、広々とし共有ホール、廊下の壁には、行事の写真や日常生活のスナップ写真、利用者が製作したちぎり絵や刺子の作品、季節の花などが飾られ居心地良く過ごせる空間となっている。ランチオンマットには利用者が作成した刺子が使われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置したり、玄関付近にもベンチを設置して好みの場所で過ごせるよう配慮している。必要時には、気の合う利用者様同士で過ごせるよう椅子を移動するなど工夫している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 シグナレス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたものや馴染みのものを持参 していただくように予めお声掛けしている。入居 申し込みの際には、ご家族様も施設内を案内し、 ご本人が快適に生活できるイメージが持てるよう 配慮している。	備え付けとして、ベッド、クローゼット洗面台があ り、エアコンで快適性が確保されている。自分の 部屋として安心して過ごせるよう自宅で使ってい たタンス、テレビ、仏壇、ぬいぐるみなどを持参し ている。入口にはネームプレートがあり、好みに より暖簾なども下げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレは迷われないように表示している。 また浴室内に手すりを設けたり、滑り止めマット を使用し、安全を考慮している。		